

「4本足の蝶」

小学校では「昆虫は6本足」と教えます。確かにそれで正しいのですが、実際に昆虫を観察すると、そう見えない場合があります。

山荘の庭によく来る蝶の一つに「コムラサキ」がいます。コムラサキ（小紫）はタテハチヨウ科の美しい蝶です。花の蜜はあまり好まないようで、花に止まっているところはほとんど見ません。むしろ、カエデやシラカバなどの樹上を休場所として好みます。動きが素早く、気配にも敏感な蝶なので、なかなか「標準レンズ距離」まで近づけません。行動を観察していると、「お気に入りの休憩所」があるようで、一旦飛び立っても、また同じ枝にとまります。時には山荘の壁で休んでいることもあります。コムラサキは翅の表は美しい紫色なのですが、裏は地味な黄土色なので、壁で休んでいる姿は遠目には蛾のように見えます。



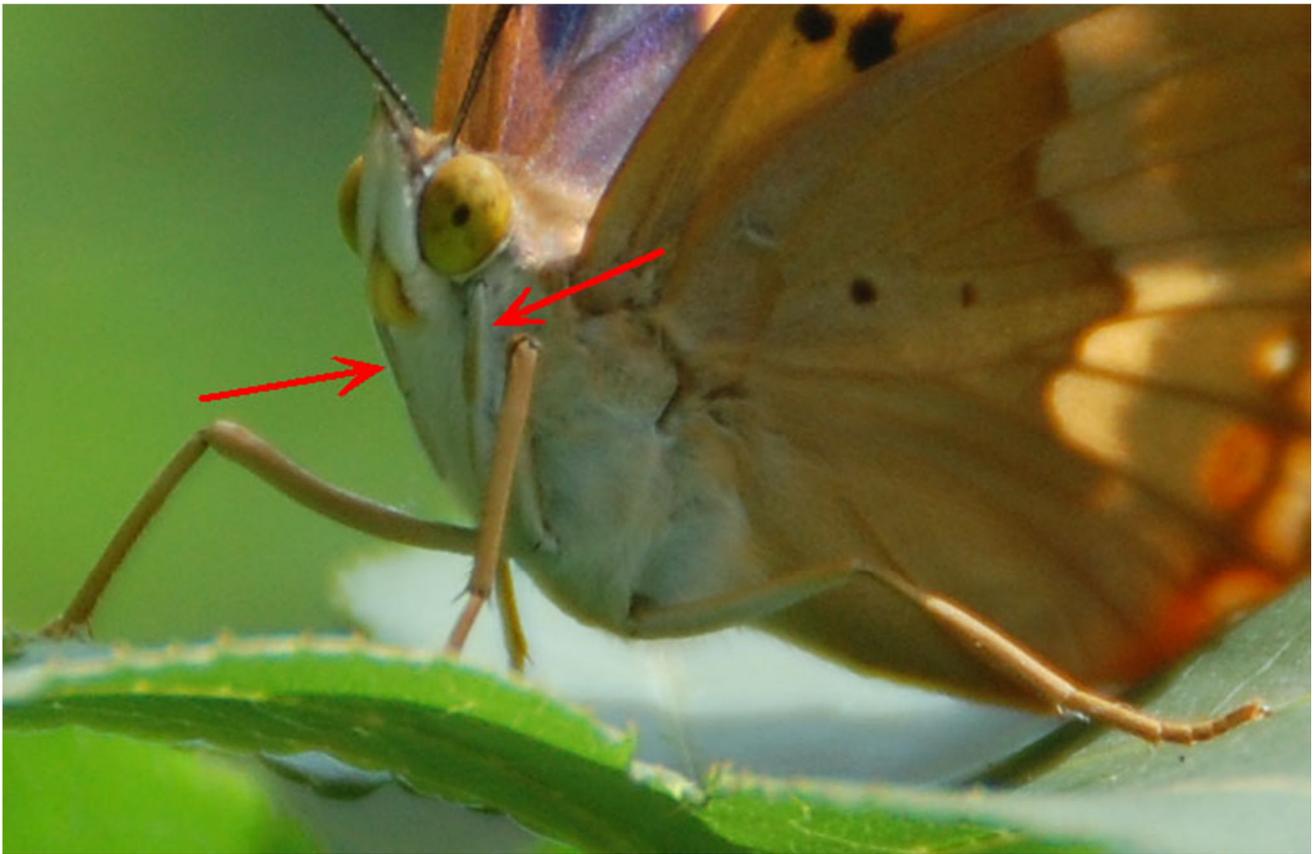
「コムラサキ」(タテハチヨウ科) *Apatura metis substitute*

晴れた日に、よくカエデの葉で休んでいます。翅の表と裏で色がずいぶんちがいます。気配に敏感で素早い動きなので、至近距離で撮影するのが難しい蝶です。(北軽井沢で撮影)

休んでいるコムラサキをよく観察すると、4本足で止まっていることがわかります。見まちがいな？と思って、別の場所に止まったところを見ても、やはり4本足です。怪我をして足を2本失ったのでしょうか？いや、そうではありません。

蝶の仲間（特にタテハチョウ科の蝶）は、6本の足のうち前脚2本が退化して小さくなっている種類があります。実は小さな足を折りたたんだ状態で持っているのですが、よほど注意しないと存在に気が付きません。つまり枝や壁で体重を支えるには、4本足だけで十分だということです。2本の前足全く使っていないかといえばそういうわけでもなく、触角と同じような感覚器官として役立っているのだそうです。

もし3年生の子どもが、絵日記やテストに4本足の蝶を描いても、「ちがうっ！」と叫ばないで、よく見てあげましょう。特にタテハチョウ科の蝶なら、4本で正解——しかもその子は非常に優れた観察力の持ち主ということです。



「コムラサキの前足」(→が前脚)

実は小さな前脚が折りたたまれています。つまり6本足。やはり昆虫だったのですね。複眼の間に、丸まった黄色い「口吻」(蝶の口器)も見えます。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)